

問い合わせ先
第八管区海上保安本部
広報地域連携室
左近 実 ・ 寺井 雄
電話 0773-76-4100 (内線 2111・2117)



平成28年1月28日
第八管区海上保安本部

平成27年の海の事故（速報）

～ 人身事故は32人増加、船舶事故は5隻増加 ～

■人身事故者数188人（前年156人）、うち死者・行方不明者75人（前年67人）

◇特に、前年に比べ

シュノーケルを使用した事故は約3倍（5人⇒14人）

飲酒を伴う事故は2.5倍（4人⇒10人）

幼児・児童※の事故は約2倍（5人⇒9人） と大幅に増加

■船舶事故隻数 138隻（前年133隻）、これに伴う死者・行方不明者 4人（前年18人）

プレジャーボートの事故が79隻（前年73隻）で、全体の約6割を占める

◇特に、前年に比べ

ミニボートの事故が約1.6倍（8隻⇒13隻）と増加し、死者も発生

※幼児：6歳未満、児童：6歳～12歳

1 事故の特徴

(1) 人身事故

人身事故188人のうち、マリレジャーに伴う事故が79人（前年77人）で、全体の4割以上を占める。このうち、遊泳・磯遊び中の事故者は39人（前年28人）と最も多く、次いで釣りに関連した事故者が29人（前年38人）、これらでマリレジャーに伴う事故全体の8割以上を占める。（資料1（2）①参照）

<事故発生海域と事故者の居住地>

- マリレジャーに伴う事故者79人のうち、若狭湾海域で発生したものが約6割の47人（資料1（2）②参照）
- 同事故者の7割以上が管区外等遠隔地からの来訪者であり、そのうち約9割が京阪神、中京地区からの来訪者（資料1（2）③参照）

<マリレジャー以外の事故>

- マリレジャー以外の事故は109人（前年79人）で、このうち海中転落が41人（前年13人）と最も多く、特に車両の海中転落による事故者が15人（前年4人）と大幅に増加（資料1（3）参照）

<遊泳・磯遊び中の事故>

- シュノーケルを使用した事故は14人(前年5人)と約3倍に増加し、半数の7人(前年4人)が死亡(資料 1(4)①参照)
- 飲酒を伴う事故は10人に増加(前年4人)し、半数の5人(前年3人)が死亡(資料 1(4)②参照)
- 幼児・児童による事故は9人(前年5人)と倍増し、2人(前年1人)が死亡。事故のほとんどは保護者が目を離した際に発生している(資料 1(4)②参照)

<釣り中の事故>

- 釣り事故者29人のうち、6割以上の19人(前年28人)は海中転落によるもので、このうち5人(前年13人)が死亡(資料 1(4)③参照)

(2) 船舶事故

船舶事故138隻のうち、プレジャーボートが79隻(前年73隻)で最も多く、漁船が38隻(前年47隻)、遊漁船が9隻(前年6隻)と、小型船舶※によるものが全体の9割以上を占める。(資料 2(1)参照)

※小型船舶：プレジャーボート、漁船、遊漁船

<プレジャーボートの事故>

- プレジャーボートの事故79隻のうち、若狭湾海域で発生したものが約7割の55隻(資料 2(2)参照)
- 事故種類は機関故障と運航阻害※で4割以上を占め、その原因の多くは機関や船体機器の整備不良(資料 2(3)参照)
※運航阻害：バッテリー過放電、燃料欠乏、無人漂流等
- 船長の6割以上は管区外等遠隔地からの来訪者であり、そのうち約9割が京阪神、中京地区からの来訪者(資料 2(4)参照)
- ミニボートによる事故は13隻(前年8隻)で5隻増加(資料 2(5)参照)

<漁船の事故>

- 漁船の事故38隻のうち、山陰海域で発生したものが8割以上を占め32隻(資料 2(6)参照)
- 事故種類は衝突と乗揚事故で約4割を占め、その原因の約9割は見張り不十分や居眠り運航(資料 2(7)参照)

<船舶事故に伴う死者・行方不明者>

- 死者・行方不明者は4人で、プレジャーボート、漁船の事故に伴うものがそれぞれ2人。

2 事故防止に対する今後の重点的な取組み

- マリンレジャーに伴う人身事故は、昨年より増加しているものの、過去5年平均よりは1割以上減少している。しかしながら、シュノーケル事故や飲酒を伴う事故、幼児・児童の事故に伴う死者が目立つ傾向にある。
- 船舶事故では、依然として若狭湾海域におけるプレジャーボート事故が多い。昨年は、舞鶴市沖で管区外来訪者が乗船するミニボートが転覆し、死者が発生しているほか、若狭湾以外でもプレジャーボートが防波堤に衝突し、死者が発生するなど、重大な事故も発生している。

このため、引き続き飲酒遊泳の危険性や管区外等遠隔地からの来訪者への事故防止啓発等、昨年実施の事故防止活動を継続・強化するとともに、以下の事項に重点をおいて今後の施策を展開する。

● 『死亡に繋がる事故の防止』

- ・ シュノーケル使用中の海水誤飲等により溺れるケースが多かったため、正しいシュノーケルの使い方啓発を実施
- ・ 飲酒遊泳の危険性をより広く知ってもらうため、海水浴場管理者等と協力した事故防止活動の展開
- ・ 幼児・児童の遊泳・磯遊び事故は保護者が目を離した際に発生していることから、自治体、教育委員会等と協力し、保護者を対象とした事故防止啓発・広報を実施
- ・ 小型船舶の転覆や衝突を防止するため、気象等の確認や見張りの徹底を啓発するとともに、ミニボートのような手軽なレジャー手段においても、ライフジャケット着用など自己救命策確保の徹底を呼びかける

● 事件事例

【事例①：飲酒を伴う遊泳中の事故】

日時 平成 27 年 8 月 4 日 午後 3 時頃

場所 京都府舞鶴市 竜宮浜海水浴場

概要 事故者（大阪府在住）は約 30 人のグループで海水浴に訪れ、飲酒の後シュノーケリングを行っていたところ、海底に沈んでいるのを同僚が発見した。



（事故現場付近の海岸）

【事例②：幼児の溺水事故】

日時 平成 27 年 8 月 1 日 午後 1 時 40 分頃

場所 福井県敦賀市 手ノ浦海水浴場付近

概要 事故者（愛知県在住、5 歳）は、両親やその友人 10 人で海水浴に訪れていたところ、大人が目を離していた間に溺水した。発見後の蘇生措置により、自発呼吸を開始し、意識を取り戻した。



（事故現場付近の海水浴場）

【事例③：ミニボートの転覆事故】

日時 平成 27 年 8 月 19 日 午前 6 時頃

場所 京都府舞鶴市野原港沖

概要 事故者等 2 名（大阪府在住）はミニボートで漁場へ航行中、横波を受けて転覆し、1 名が海中転落（負傷）、1 名がミニボートとともに岩場に打ち上げられ、後に死亡が確認された。



（潜水士による救助の様子）

【事例④：車両の海中転落事故】

日時 平成 27 年 11 月 27 日 午後 0 時 35 分頃

場所 鳥取県米子市米子港

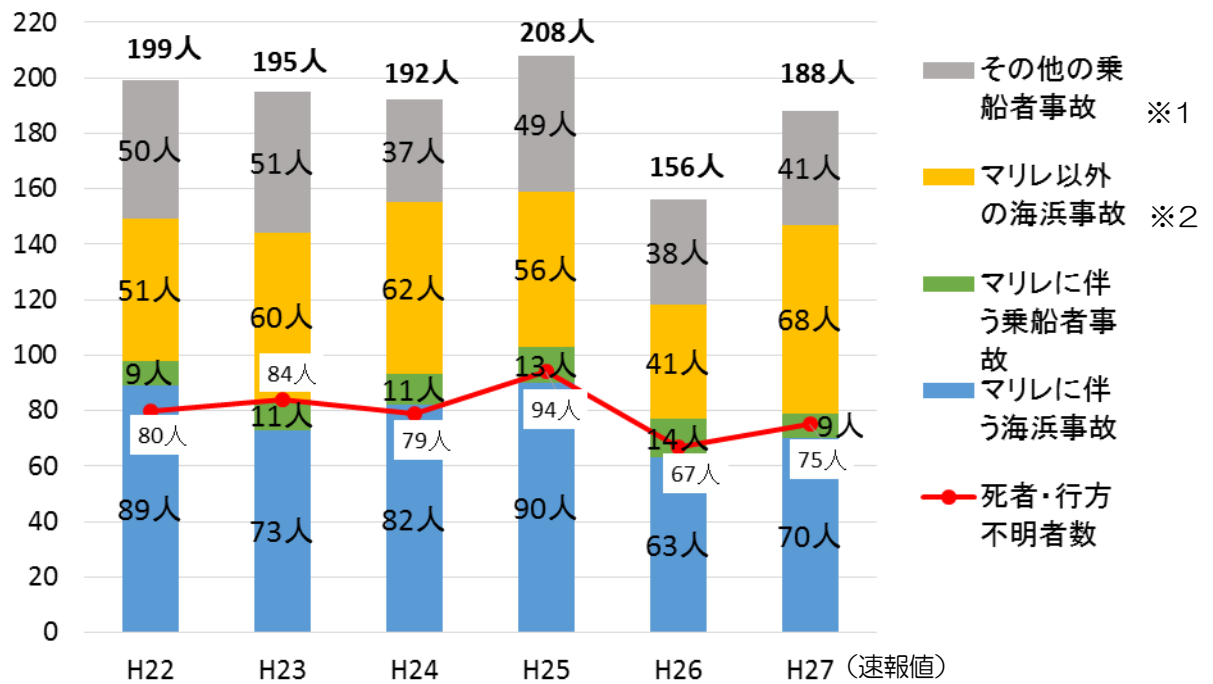
概要 事故者等 4 名は、岸壁で休憩した後、バックで車を出そうとしたところ急に前進しパニックとなり、運転を誤って海中に転落した。事故当時 4 名のうち 2 名が意識不明の重体となった。



（転落現場救助の様子）

1 人身事故

(1) 過去5年（平成22年～平成26年）と平成27年の人身事故の推移

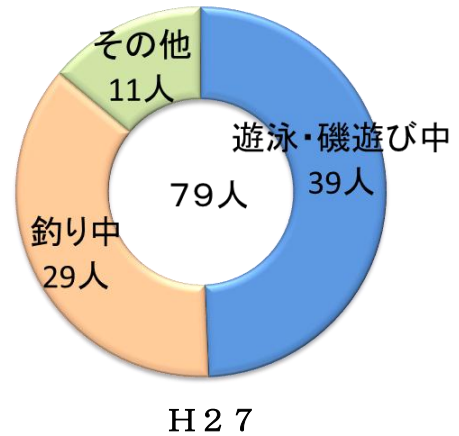
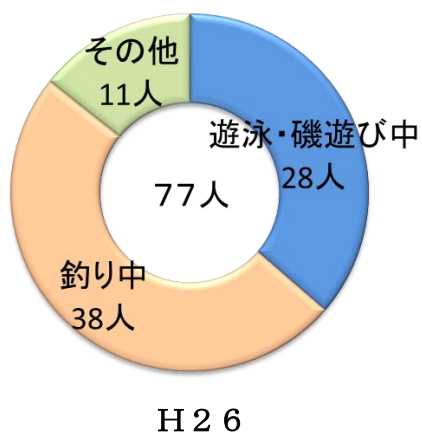


※1：漁船乗組員等の怪我、病気、海中転落等

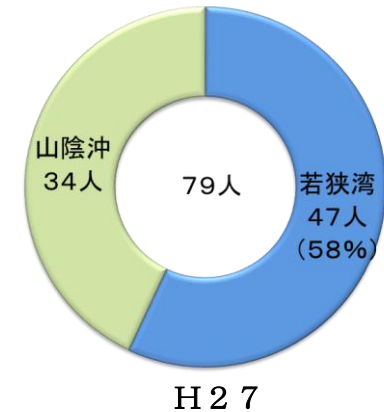
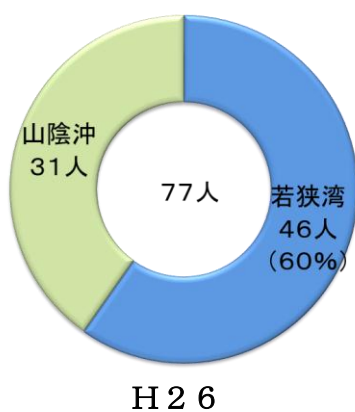
※2：自殺、病気、車両転落等

(2) マリンレジャーに伴う事故

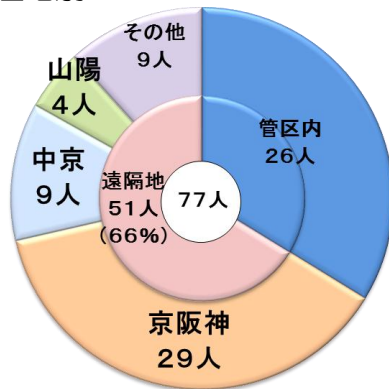
① 種類別



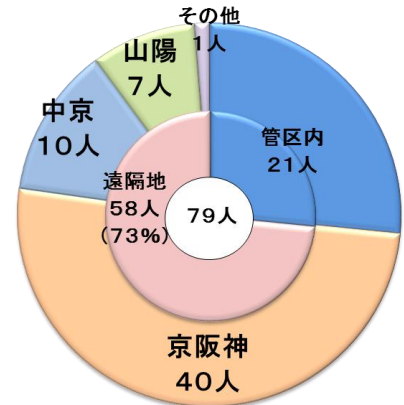
② 発生海域別



③ 居住地別

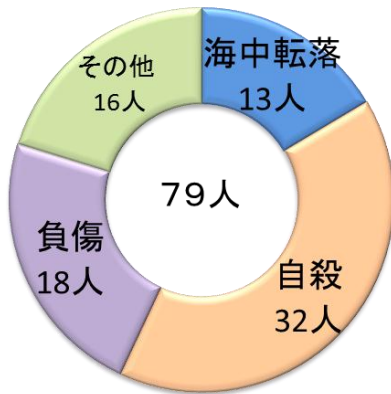


H 2 6

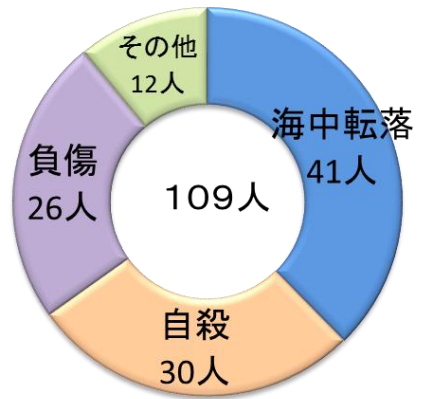


H 2 7

(3) マリンレジャー以外の事故者



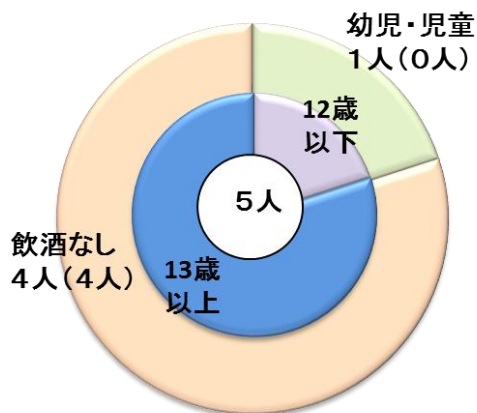
H 2 6



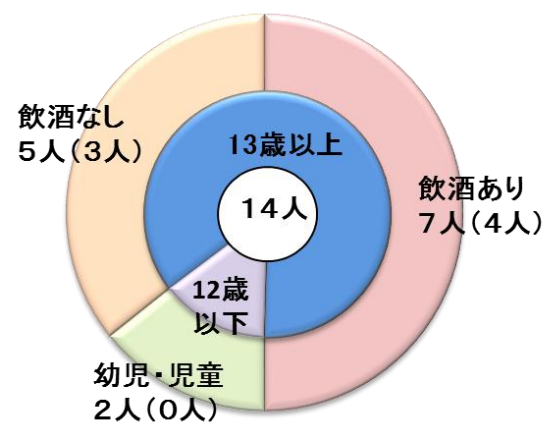
H 2 7

(4) マリンレジャーに伴う事故の特徴

① シュノーケリング中の事故者 (遊泳中)



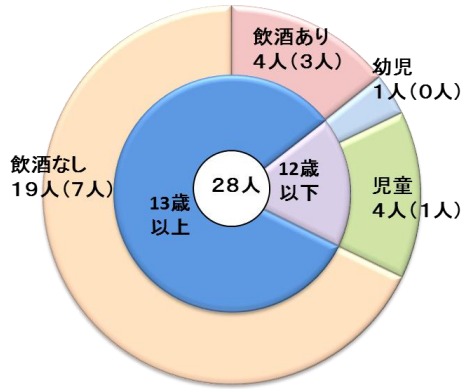
H 2 6



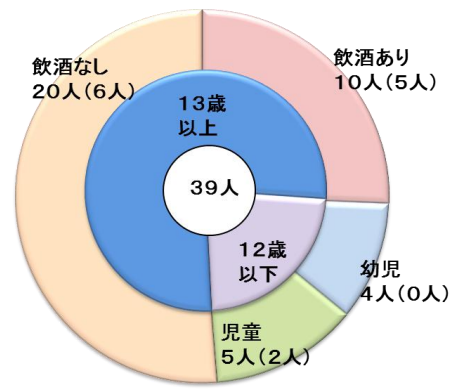
H 2 7

(※ 括弧内は死者・行方不明者数の再掲)

② 飲酒及び幼児・児童の事故者（遊泳・磯遊び中）



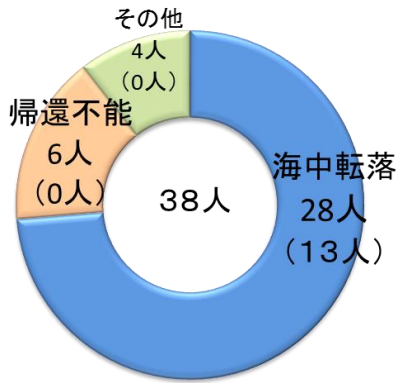
H 2 6



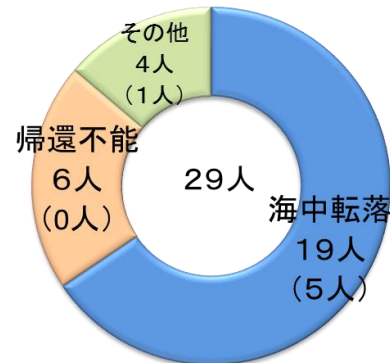
H 2 7

(※ 括弧内は死者・行方不明者数の再掲)

③ 釣り中の事故



H 2 6

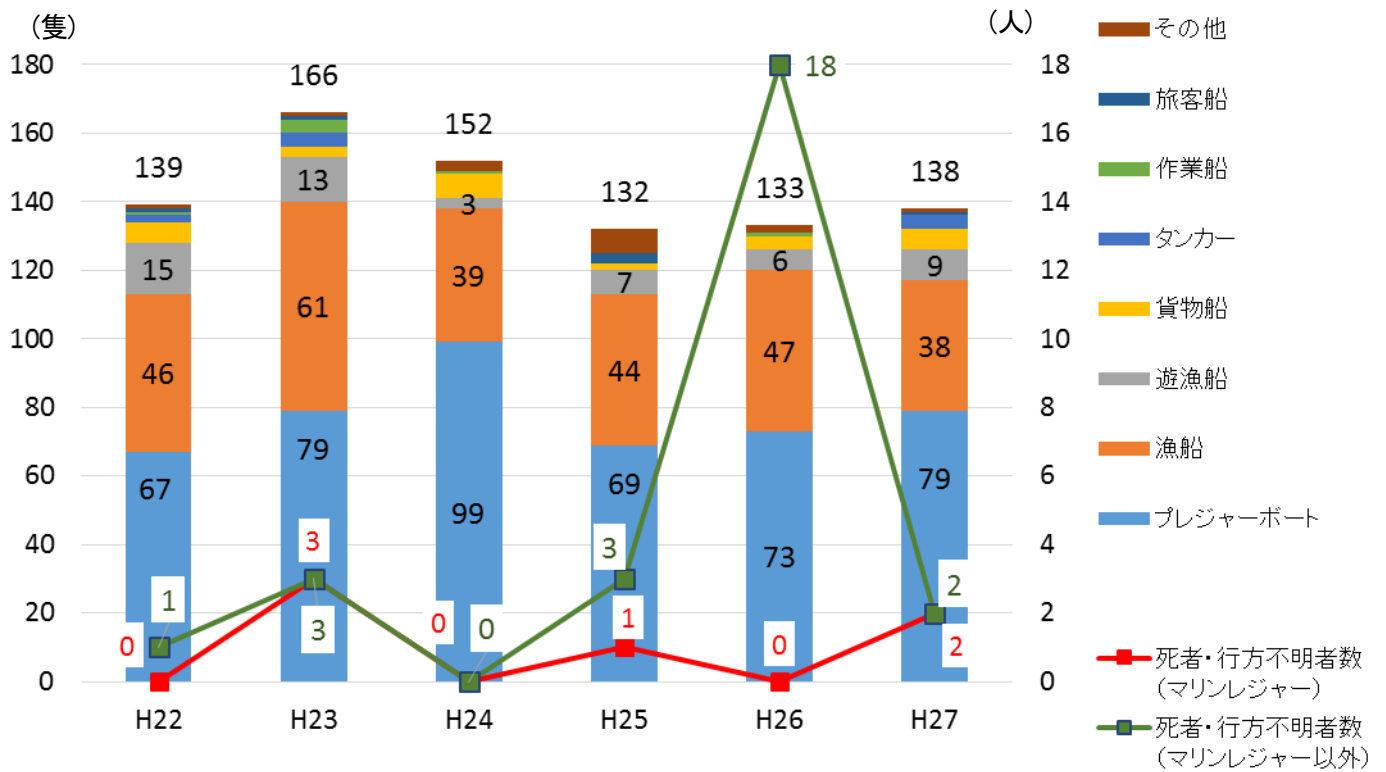


H 2 7

(※ 括弧内は死者・行方不明者数の再掲)

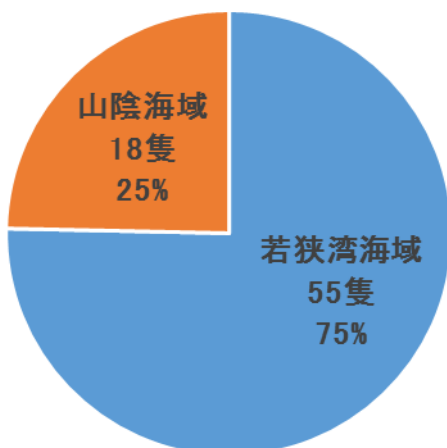
2 船舶事故

(1) 過去5年（平成22年～平成26年）と平成27年の船舶事故の推移



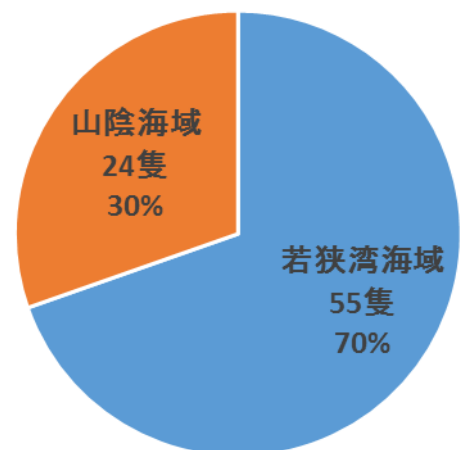
(2) プレジャーボートの事故 発生海域別

H 2 6



(合計 73 隻)

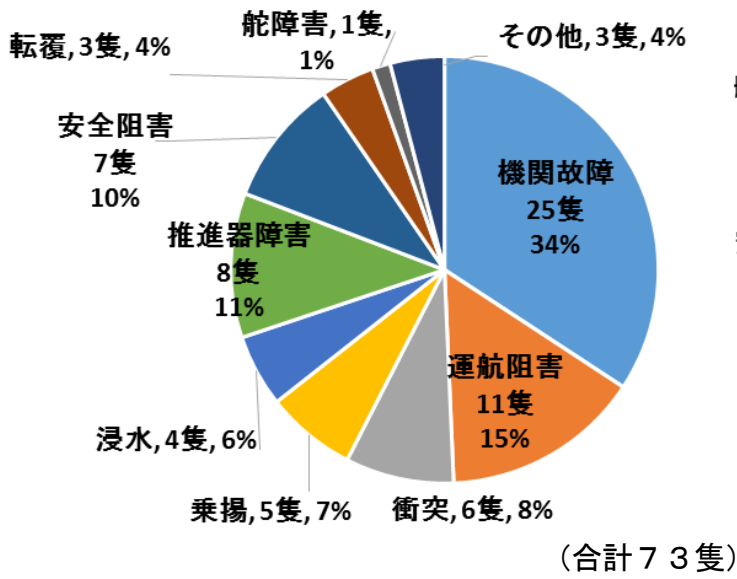
H 2 7



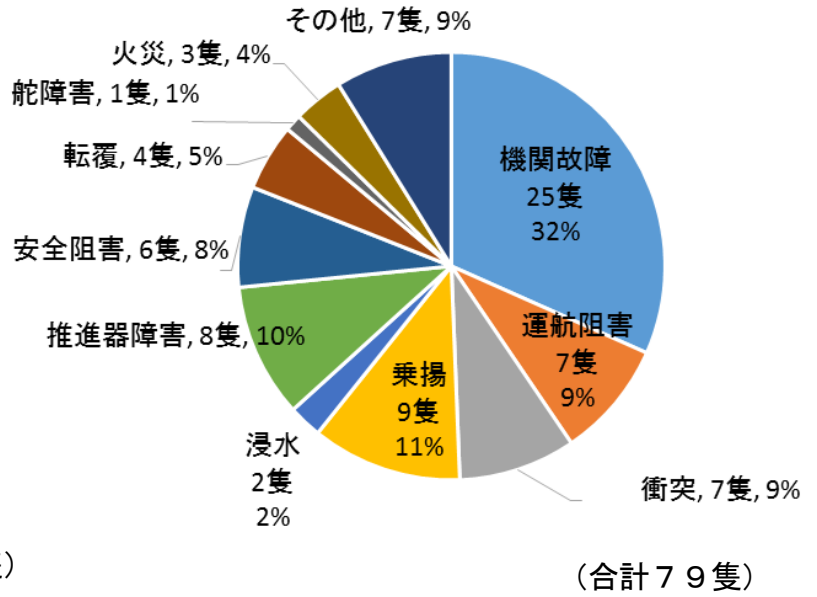
(合計 79 隻)

(3) プレジャーボートの事故 事故種類別

H 2 6

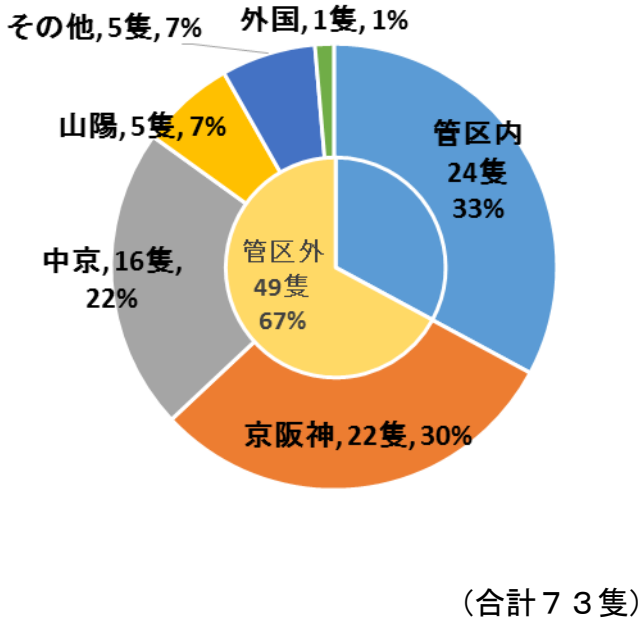


H 2 7

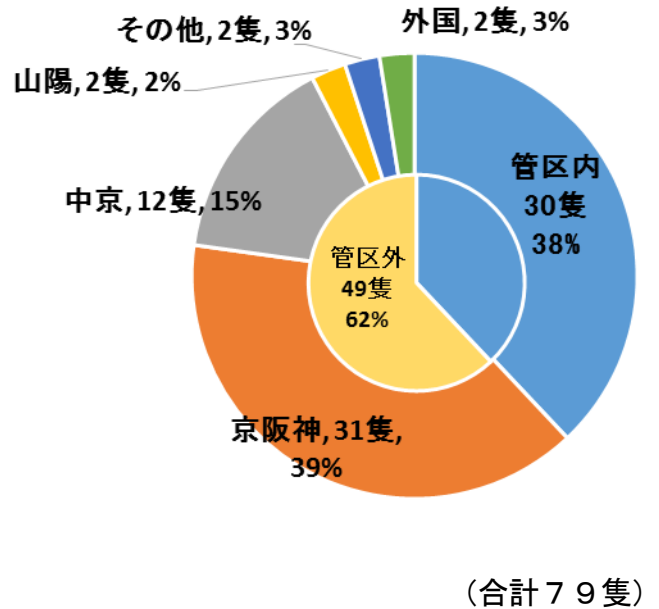


(4) プレジャーボートの事故 船長居住地別

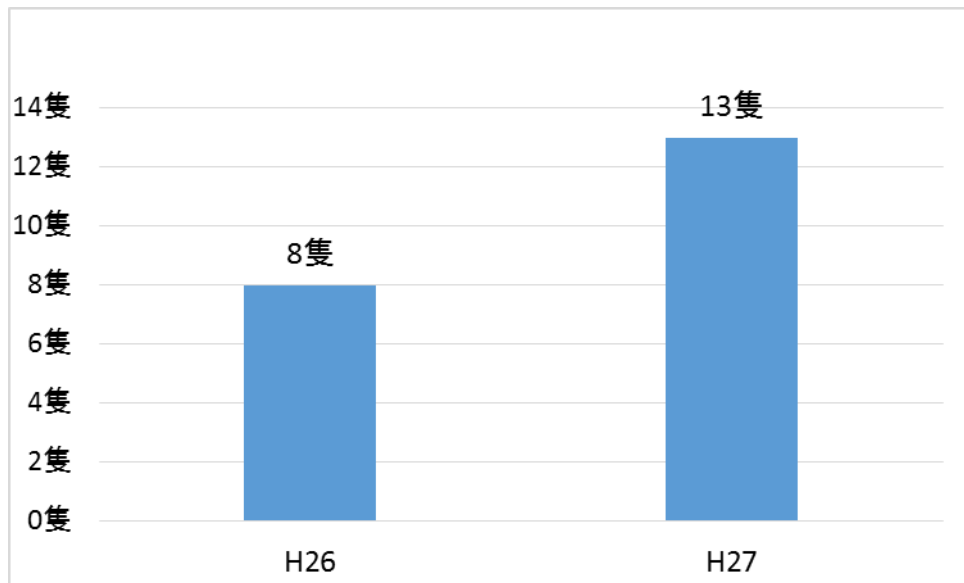
H 2 6



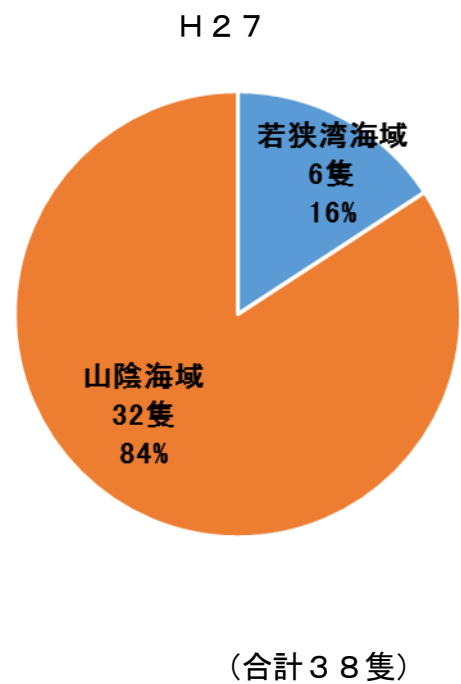
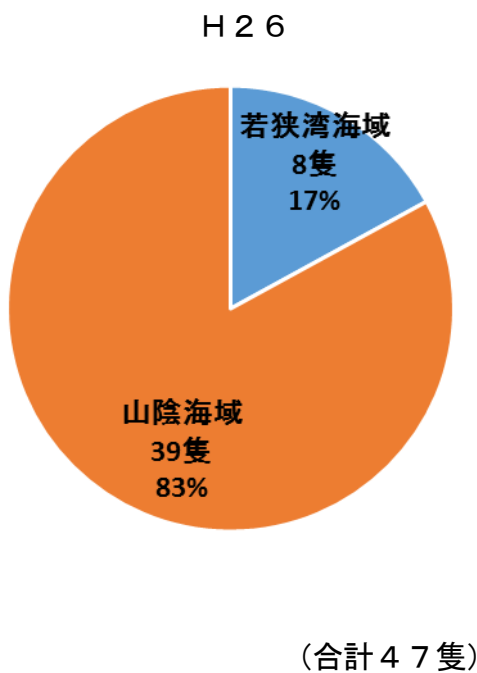
H 2 7



(5) プレジャーボートの事故 ミニボート昨年との比較

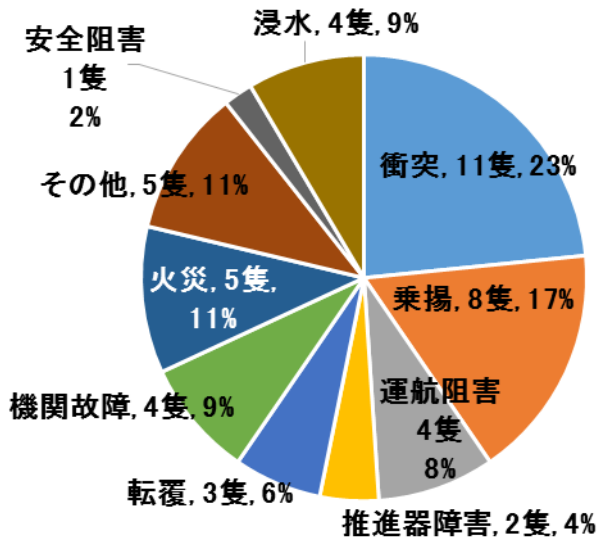


(6) 漁船の事故 発生海域別



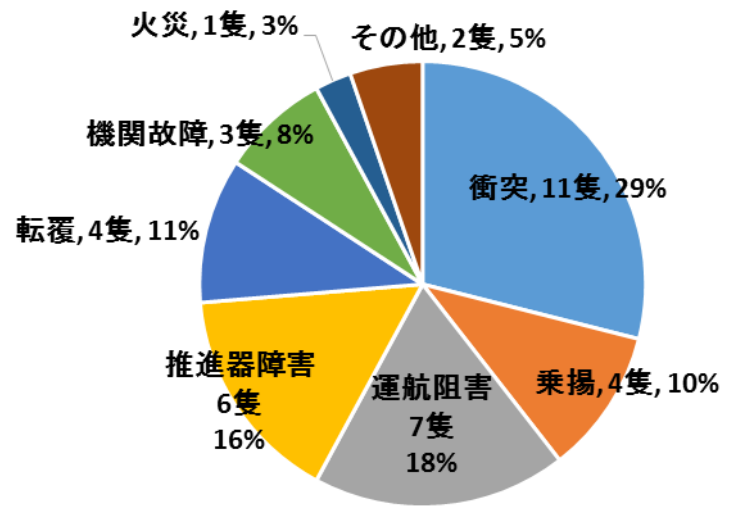
(7) 漁船の事故 事故種類別

H 2 6



(合計 4 7 隻)

H 2 7



(合計 3 8 隻)